

福岡市医師会 第1回定例記者会見資料

ご質問と回答		
NO	ご質問	回答
1	新型コロナウイルス感染者増の現状認識を教えてください。	○第2波の終盤と考えられますが、今後も数回の感染増の波が予測されます。 ○行政の施策について評価する立場にありません。
2	福岡県のコロナ対策への評価を教えてください。	○福岡市とは協力して対応し、医師会の意見も市の対策に反映しています。
3	医療機関の経営悪化に対する福岡市医師会として独自の支援、政治への働きかけなどあれば教えてください。	○会員医療機関には支援に関する情報発信を継続し、届いた支援物資の配布等を行っています。 ○福岡市長に支援を要請しています。
4	市内のPCR検査の体制は充分でしょうか。	○市内のPCR検査体制の現状は何とか対応できている状況と思われれます。 ○本会診療所の1日当検査対応数は現在最大約150件です。
5	PCR検査センターの運用について、1日あたりの検査の対応数、新たに直面している課題があれば教えてください。	○課題としてドライブスルーで来られない方への対応や、検査センターを拡充した場合の勤務者の確保があります。 ○今後の検査体制の拡充は感染者増やインフルエンザ流行状況等を見ながら市と協議し、適切に判断していきたいと考えます。
6	北九州市ではかかりつけ医で新型コロナの抗原検査を受けられるよう体制を整える方針ですが、福岡市でも同様の検査体制を希望しますか。	○抗原検査を受けられる体制作り:抗原検査でも福岡市との委託契約が必要で、そのため診療所でも相当の感染対策が必要です。唾液PCRや抗原検査などが身近な医療機関でも受けられるよう、市と検査体制づくりに取りかかっているところです。
7	新型コロナによる市内の医療機関への影響(経営面や受け入れ態勢)	○受診控えにより、基幹病院においても一か月に1億円以上の赤字を出しており、また、クリニックでも小児科や耳鼻科等で受診率が大きく減少しています。 (R2.3~5月分診療報酬…児:35.1%減,耳:36.6%減) ○経営面への影響ばかりではなく、従業員や家族への偏見、差別により職員の退職が増え、医療提供体制への影響が懸念されます。
8	受診遅れなど患者の健康面での影響について、適切な受診を促すべきような具体事例があれば教えてください。	○慢性疾患、認知症等の患者の方は定期的受診が疾病悪化の予防です。 ○症状が持続する・増悪傾向の場合は他の疾患である可能性もある為、必ず受診をしてください。
9	マスク着用と熱中症対策(この時期、マスク着用下での長時間運動は避けるべきか等)	○発熱や倦怠感等、気になることがあればかかりつけ医にすぐにご相談ください。 ○高温多湿の環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあり、屋外で人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外すよう気を付けてください。
10	インフルエンザ流行期を控えての備え(ワクチン確保の見直し、その他懸念事項など)	○新型コロナとインフルエンザの同時流行が懸念されます。 医療機関での診断に混乱をきたさないためにも各種ワクチンの接種にご協力をお願いします。
11	コロナ禍における行政との連携について。現状と課題、他の地域と比較して、優れていると感じている点や伸びしろ	○会内に行政も参加する専門会議を設置し対策を講じています。 ○行政主催の会議に都度参画し連携に努めています。 ○学校健診・乳幼児健診事業での協議連携、園・学校で新型コロナが発生した場合の情報共有を行っています。
12	感染拡大を受けて、市内の医療提供体制は逼迫しているという認識でしょうか。救急医療などコロナ以外の面に影響は出ていませんかでしょうか。	○県の病床利用率(新型コロナ)が50%を越え、救急医療等医療提供体制に影響が出ています。 ○医療資源は以前に比較して改善してきましたが、未だ不足の状況が続いています。
13	医療資源の過不足について。	
14	自宅療養を選ぶ人が多い中、ホテル療養の重要性について。	○現行、福岡県では病状によって入院か宿泊療養を原則としています。療養ホテルでは医師・看護師が常駐しており、家族等への感染リスク回避や急激に重症化した場合の体制が整っています。
15	自宅療養者について、その健康管理を医療やクリニックが担うといった取り組みの予定はないでしょうか。	○今後さらに感染者が増加した場合、入院施設等は逼迫することも十分想定されることから、かかりつけ医が関わって軽症・無症状の方が安心して「自宅療養」ができる体制の構築を行政と共に検討しています。

※ご質問に対する回答は定例記者会見時点での内容です。今後の感染状況等により内容が変更になる場合があります。